

マリー・キュリーポスター展の開催にあたって

名古屋大学物質科学国際研究センター
センター長・教授 巽 和行
(IUPAC 副会長)

平成22年度に物質科学国際研究センターの客員教授として、ピエール・マリー・キュリー大学（パリ）名誉教授の、ミシェル・ベルダゲル先生（Prof. Michel Verdaguer）が来日されました。先生のご滞在中に、2011年世界化学年についてお話をさせていただく機会があり、折しも私がIUPAC(国際純正・応用化学連合)の副会長をしており、世界化学年、International Year of Chemistry 2011の活動を統括する中心組織にいること、また先生ご自身が世界化学年のシンボルであるマリー・キュリーと大変関わりの深い大学にいらっしゃり、キュリー博物館との関係も深いことから、今回のポスター展を開催することになりました。

この会場にあるポスターは、パリにあるキュリー博物館によって制作されたオリジナル版で、日本語訳が付けられています。東日本大震災からの日本の早い復興を願い、ポスター作成及び輸送にかかる経費はすべてフランスによって負担されました。また、ポスターは正式な外交ルートを通じて日本へ送られて来ました。本日ご来場いただいた皆様には、フランス側の温かい心配りに配慮しつつ、マリー・キュリーの功績を辿っていただけたらと思います。

また会場内には、名古屋大学男女共同参画室の活動に関する紹介もさせていただいており、ポスター展開催期間中には、理系女子グループ「あかりんご隊」による、小学生向けの化学実験ショーも企画されています。幅広い年齢層の皆様にも、様々な形で世界化学年の行事へご参加いただければと存じます。

最後になりましたが、このポスター展開催にあたりご尽力いただきましたミシェル・ベルダゲル先生はじめ、キュリー博物館、キュリー研究所、およびフランス国立科学研究センター、フランス外務・欧州担当省、在日フランス大使館の皆様のご協力とご支援に心からお礼を申し上げます。



Prof. Michel Verdaguer
Pierre et Marie Curie University



世界化学年のオープンセレモニー
(左から2人目、巽IUPAC次期会長、2011年1月ユネスコ本部、パリ)



ワルシャワのキュリー博物館にて



キュリー一家の家系図の前で



記念の記帳